

対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 ASEAN 招へい第 19 陣の記録

テーマ：日本の複数政党制民主主義，対象国：カンボジア

1. プログラム概要

JENESYS2019 の一環として、カンボジアより若手政治関係者 10 名が、2020 年 1 月 23 日～1 月 31 日の 8 泊 9 日の日程で来日しました。本訪日団は、「日本の複数政党制民主主義」をテーマに、東京都内で有識者による講義を聴講したほか、立法・行政・司法関係機関を視察しました。更に、東京都八王子市を訪問し、投開票作業を含む地方選挙の実務について視察しました。また、徳島県を訪問し、同県の地方行政や文化関連施設等を視察し、日本について理解を深める機会を持ったほか、地域における国際交流活動に関わり、親睦を深めました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、発表しました。このプログラムを通じて、カンボジアの次世代を担う若手政治関係者が、日本の複数政党制民主主義についての見識を深め、今後、自国の民主的発展に向けた参考とすることが期待されます。

【参加国・人数】 カンボジア 10名

【訪問地】 東京都，徳島県

2. 日程

1月23日（木）来日【オリエンテーション】

【講義】有識者による講義（神奈川県大学法学部大川千寿准教授）

【表敬】外務省（茂木外務大臣表敬）

1月24日（金）【視察】最高裁判所見学

【交流】カンボジア和平関係者との面会

【参観】東京タワー

1月25日（土）【視察】東京都八王子市訪問

八王子市選挙管理委員会からの説明

期日前投票

街頭活動見学

1月26日（日）【視察】元八王子第6投票区投票所視察

【視察】開票会場についての説明

投開票視察

1月27日（月）東京都から徳島県へ移動

【表敬】徳島県庁訪問

【交流】徳島商業高校訪問

【視察】阿波おどり会館

1月28日（火）【視察】神山町（サテライトオフィス）

【交流】上板町立高志小学校訪問

【視察】鳴門の渦潮

徳島県から東京都へ移動

1月29日（水）【視察】国会議事堂（衆議院）

【表敬】日本カンボジア友好議員連盟

1月30日（木）【ワークショップ】

【報告会】

1月31日（金） 帰国

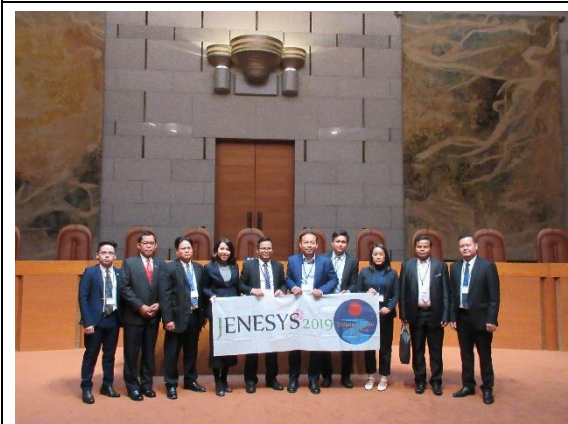
3. プログラム記録写真



1月23日【講義】
有識者による講義



1月23日【表敬】
外務省（茂木外務大臣表敬）



<p>1月24日【視察】 最高裁判所見学</p>	<p>1月25日【視察】 八王子市選挙管理委員会からの説明</p>
	
<p>1月25日【視察】 八王子市選挙管理委員会からの説明</p>	<p>1月25日【視察】 模擬投票体験</p>
	
<p>1月26日【表敬】 元八王子第6投票区投票所視察</p>	<p>1月27日【表敬】 徳島県庁訪問</p>
	
<p>1月27日【交流】 徳島商業高校訪問</p>	<p>1月27日【視察】 阿波おどり会館見学</p>



1月28日【視察】
神山町（サテライトオフィス）



1月28日【交流】
上板町立高志小学校訪問



1月29日【視察】
国会議事堂



1月29日【表敬】
日本カンボジア友好議員連盟



1月30日【報告会】

4. 参加者の感想（抜粋）

- ◆ 機会があれば、日本とカンボジアの子どもたちに、経済的で子どもに優しく、自信に満ちた教育プログラムをもたらしたい。そうすることで、同じような文化を持った両者の絆が深まると思う。カンボジアの民主主義は歴史が浅いが機能的で、市民による統一力があるので、平和と継続的な発展を保証するだろう。

- ◆ 日本はすべての分野で近代化された先進工業国であると感じた。また日本人は親切で友好的だ。最も重要なのは、日本人は自分のキャリアに興味があり、自分がしていることに高い義務感を持っていることだ。交通法を遵守し、いつも周りの環境をきれいにすることに気をつけている。訪問したすべての場所と、選挙運動および投票の集計に感銘を受けた。それに加え、ビジネススクールと小学校に非常に興味があり、日本が幼い頃からソーシャルワークに参加するために子供たちにどのような教育をしているかを知ることができた。さらに、政治家は成熟した大人で、法の支配を尊重している。彼らは国益を自分の個人的な利益よりも優先しており、何より、告発が名誉棄損につながることはない開かれた政治的ディベートを可能にしている。選挙活動は参加するすべての政党に公平に割り当てられており、これは自由で公正な選挙と民主主義の重要な要因である。議会では批判的な議論をするかもしれないが、彼らも日本の一般市民であり、日常生活においては友人である。

- ◆ このプログラムで準備されたすべての視察と講義は、カンボジアの代表者たちにとって非常に有用で学習に適した内容だった。政府高官、特に外務大臣の茂木敏充議員および政府代表の河野雅治氏によるアドバイスはとても有益で関連性があり、励みになった。また徳島を訪れ、多くのことを学んだ。徳島商業高校を訪問し、若い学生がどのようにビジネスコンセプト、創造性、倫理、そして他国への親切さについて教育されているかについて知ったことは強く記憶に残っている。地方選挙（直接投票）について学び、実際の選挙活動と投票を視察・見学できたことは非常に有意義であり、高く評価する。

5. 受け入れ側の感想（抜粋）

- ◆ 海外からの視察は時々受け入れているが、カンボジアからは今回が初めてだった。議員視察は時に表敬訪問的になりがちだが、今回はカンボジアの複数政党を跨いだ若手政治関係者一団とのこと。皆さんとても熱心で、たくさんの多岐にわたる質問を頂いた。人口の都市集中は世界共通課題、私達の取り組みが少しでも役に立てば光栄である。遠路の訪問に感謝する。

6. 参加者の対外発信



1月25日 19:25

河野 Masaharu KOHNO 日本国駐カンボジア大使館長 河野雅治氏は、30年前にカンボジアの平和プロセスに参加した。カンボジアの平和に関する以下の重要な側面は、これからの世代が考慮すべきこと。

- ・カンボジアの政治における2人の不可欠な立役者ノロドム・シハヌーク国王とフン・セン首相のリーダーシップが、平和とパリ協定につながった。
- ・カンボジアの平和を見出し、政治危機を解決することは国自体のリーダーシップに依存しており、外国のいかなる影響にも依存することはできない。

いいね! コメント シェアする



341

いいね! コメント シェアする

【表敬】 政府代表についての発信

日本政府の平和活動特使である河野雅治氏は、30年前にカンボジアの平和プロセスに参加した。カンボジアの平和に関する以下の重要な側面は、これからの世代が考慮すべきこと。

- ・カンボジアの政治における2人の不可欠な立役者ノロドム・シハヌーク国王とフン・セン首相のリーダーシップが、平和とパリ協定につながった。
- ・カンボジアの平和を見出し、政治危機を解決することは国自体のリーダーシップに依存しており、外国のいかなる影響にも依存することはできない。

【表敬】 外務省についての発信

カンボジアの若手政治家の代表10名が、日本の新しい外務大臣を表敬訪問。民主化、人権、法の支配を含む分野での平和と発展を構築し維持するカンボジアの努力が賞賛された。また、政治的には対立するにもかかわらず、協力し団結するカンボジアの若い世代の政治家が同じ目標を達成する長い道のりを、日本は支援することを約束してくれた。



日本の気候は農作物向きとは言えないが、1億2900万人の日本人が野菜に事欠くことは無い。日本人は健康で、平均寿命は82歳以上だ。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表（抜粋）

- 日本の教育システムについて、同僚、友人、学生と共有する。
- 選挙制度について、カンボジアでは比例代表と直接選挙の組み合わせが効果的で実行可能と考えたので、主要な政治家の間でこの考えを提案していきたい。
- 公務員と政治家における労働倫理と文化の普及。また次のステップとして、今回のプログラムを通じて繰り返し助言されたカンボジアの政治家間の連帯と統一を目指す。
- 自分の家族、友人、コミュニティ、政治活動家仲間、そしてカンボジアの市民に、日本への訪問から学んだことを、あらゆる場所で教え共有する。
- 法の支配、民主主義、自由、そして経済と社会の長期的かつ包括的で持続可能な発展を促進する上で、強烈な民主的システムがいかに重要であることを伝える。

事業実施団体：株式会社JTB